

1. 将来ビジョンの策定の背景

- 新潟の玄関口である新潟駅・万代地区周辺のエリア価値と魅力の向上は、都心および新潟全体のまちや経済を活性化し、国際競争力を高めるうえで不可欠
 - 官民連携による魅力的で風格ある都市空間の形成や、居心地よく歩きたくなるまちなかづくり（まちなかウォークブル）を推進するうえで、「新潟都心の都市デザイン」の具現化に向けた地区（エリア）の将来像を描くことが必要
 - 民間事業者による開発の機運が高まっていることから、「都市再生緊急整備地域」指定を目指し、質の高い民間開発を誘導
- ↓
- 市民、事業者、行政が将来像を共有し、その実現に向けて官民連携で取り組むため、「(仮称)新潟駅・万代地区周辺将来ビジョン」を策定
 - 将来像を共有し、エリアの魅力と価値の向上に資する都市活動を活性化し、持続可能とする**エリアプラットフォーム**を構築

2. 将来ビジョンの策定主体と目的

- 策定主体
 - ・新潟市
 - ・(仮称)新潟駅・万代地区周辺エリアプラットフォーム

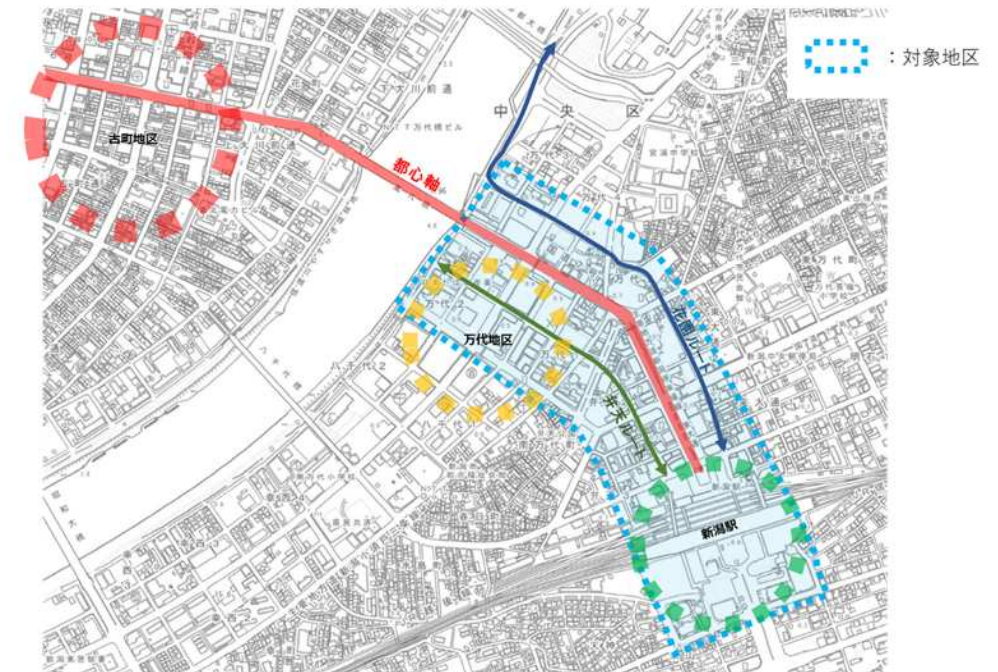
※ 未来ビジョンの策定に際しては、有識者や関係団体から幅広い意見を聴取し、策定する。
※ 未来ビジョン策定とともに、官民の多様な人材が集結するエリアプラットフォームを構築し、ビジョンの実現のための自立・自走型システム（組織）の構築につなげる。
- 目的

新潟駅周辺整備をはじめとした官民の事業が進捗するなか、当該地区にかかわる多様な関係者と今後目指すべき将来の姿を共有するため、「(仮称)新潟駅・万代地区周辺将来ビジョン」を策定する。

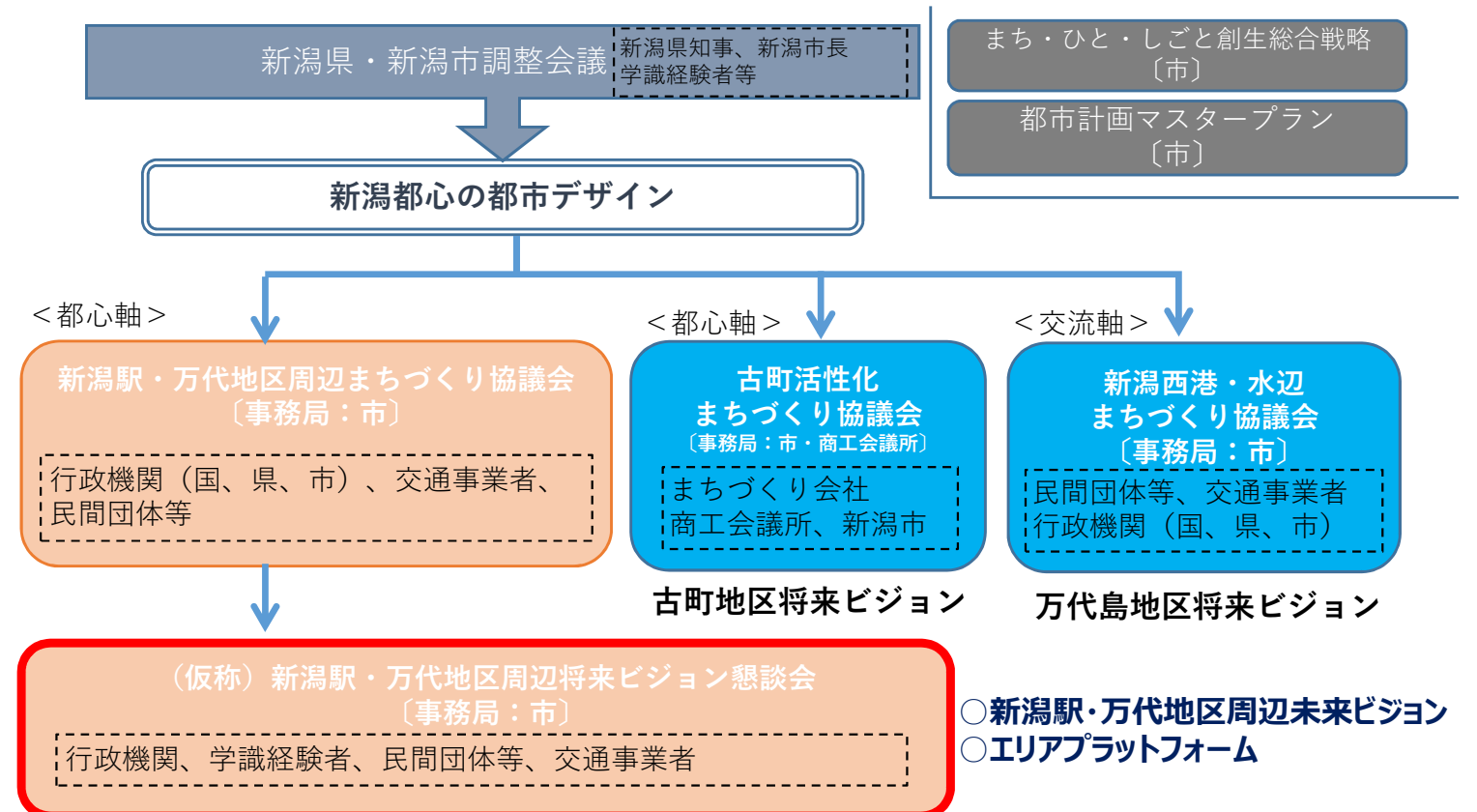
※ 将来ビジョンは、概ね20年後における当該地区の望ましい将来像を表現し、まちづくりの方向性を示すとともに、具体的な事業・取り組みを可能な範囲で位置付ける。
※ 本市は、総合計画を通じてSDGsを推進することとしており、本将来ビジョンにおいてはSDGsの達成を視野に入れて策定する
※ 本市は、2050年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを表明しており、脱炭素社会の形成に資する取り組みも意識する
※ 商店街関係者、地権者などの当該関係者のみならず、市民や来街者などの様々な立場の人々にとってわかりやすいもの（ビジュアル化）
※ まちづくりに係る様々な主体がこの将来像を共有し、それぞれの役割分担のもと、共通の視点で取り組みを進めていく指針とするもの（共有・誘導）

3. 将来ビジョンの前提・対象地区

- 前提
 - ・概ね20年後を目標年次に見据えた段階的な都市再生を目指す。
 - ・新潟駅周辺および万代地区周辺を対象とする。
- 対象地区（案）
 - ・対象地区を以下のとおり（青点線枠）とする。



4. 将来ビジョンの位置付け



(仮称)新潟駅・万代地区周辺エリア将来ビジョンとエリアプラットフォームについて (2)

5. 将来ビジョンの構成案

1 はじめに

- (1) 将来ビジョンの背景と目的
- (2) 目標年次と対象エリア
- (3) 都市づくりの潮流等から求められること
- (4) 対象とする地域の特性の現状分析

2 新潟駅・万代地区周辺が目指すまちづくりの基本方針

- (1) 目指すべき将来像
- (2) エリアごとの特性に応じた将来像
- (3) ビジョンに基づくまちづくりの方針
- (4) 「ヒト中心」のまちを形成するための都市形成シナリオ

3 具体的方策と役割分担

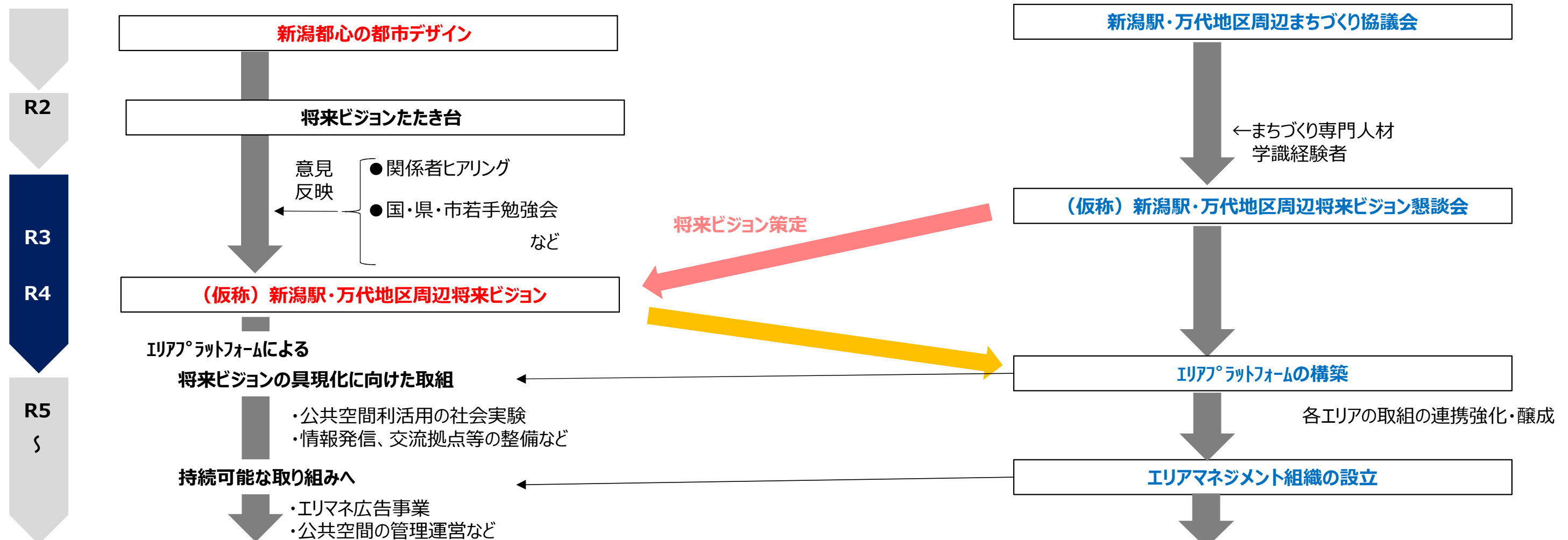
4 構想の実現に向けて

- (1) 目指す将来像に向けたロードマップ
- (2) 目指す将来像に向けた連携の在り方

6. 懇談会のスケジュール案

年度	時期	予定
R3	10月	第1回懇談会
	11月	第2回懇談会
	1月	第3回懇談会
	2月～3月	第4回懇談会
	3月	将来ビジョン (骨子案)
R4	4月～5月	第5回懇談会
	7月	将来ビジョン (素案) 第6回懇談会
	夏頃	将来ビジョン完成

7. 将来ビジョン策定とエリアプラットフォーム構築後の展開 (案)



エリアの魅力と価値の向上 + 持続可能な体制の構築